

日本共産党 滋賀県議 杉本としたか県政レポート No.49

大寒波もコロナ猛威も関係なし ?!

宴会大好き **日本共産党を除く** オール与党県政

大寒波で県民が苦勞するなか 2特別委員会の15議員が宴会

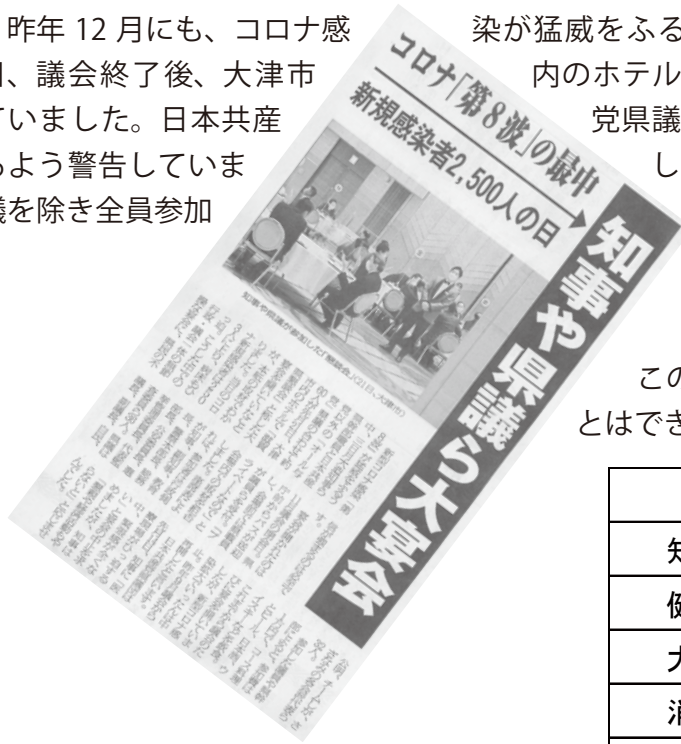
10年に1度の大寒波が襲来した24日夜、滋賀県内では新名神で車が立ち往生、JRの運転見合わせで車内に閉じ込められ帰宅できない事態が続出。そんな中、県議会の2特別委員会に所属する議員らが宴会を開いていました。三日月知事は同日午前前の会見で午後から鉄道運行が取りやめになる可能性があるとし、「企業、事業所のみなさんには本日早めの帰宅を促してもらいたい」と呼びかけていました。

宴会を開いていたのは「琵琶湖・CO2ネットゼロ対策」（甲賀市で9議員）、「公共交通・国スポ・障スポ大会対策」（大津市で6議員）の特別委員会。日本共産党以外の全ての会派の議員が参加していました。JRの運転見合わせで帰宅できない議員もいたということです。ちょっとひどいのではないのでしょうか。

コロナ猛威の年末にもホテルで大宴会

昨年12月にも、コロナ感染が猛威をふるい2053人が感染した21日の、議会終了後、大津市内のホテルで知事や県議が大宴会を開いていました。日本共産党を除き全員参加

染が猛威をふるい2053人が感染した21日のホテルで知事や県議が大宴会を開いていました。日本共産党を除き全員参加



これでは県民を守れない

このような緊張感のないオール与党のなれあい県政では、県民の暮らしを守ることはできません。下表は12月議会の意見書や請願にたいする対応です。

意見書・請願	日本共産党	他の全会派
知事・県議らの期末手当引上げ	反対	賛成
健康保険証の一律廃止の撤回	賛成	反対
大軍拡に反対し、平和外交を求める	賛成	反対
消費税5%への引下げ	賛成	反対
介護保険改定案の撤回	賛成	反対

県民本位を貫く日本共産党

政務活動費の不適正な支出が明らかになりました。自己所有の建物に事務所費（自民）、統一協会イベント参加経費（自民・公明・さざなみ）、行政書士専門書の購入費（チームしが）。一部返還されていますが、完全には是正をされていません。日本共産党は、政務活動費の検討調査委員会の設置を提案しました。滋賀県が統一協会関連団体のイベント後援と寄付金受領をしていた問題を追及しているのも日本共産党だけです。大野議員の県職員への不当圧力問題で、日本共産党県議団は政倫審の設置を提案し、本会議での謝罪と警告文の発出の実現に力をつくしました。県政報告費の二重取り疑惑についても徹底した説明を求めています。

これが 緊張感の全くない議会

12月議会の一般質問で下のようなやりとりがありました。
◇川島議員「知事は滋賀旅を利用したことがあるのか」
●知事「使用させていただいたと思います」
◇川島議員「部長はしが割を利用されたのか」
●商工観光部長「期間のうちに一度、飲食店で使用させていただきました」
しが割は予算が枯渇し、利用できない県民が多数続出。制度の設計者が率先して利用していたのは大問題です。ところが質問者はその責任を追及するのではなく、県幹部の率先した利用を評価しています。知事や部長は、税金の支援を受けなくても旅行や外食ができるはずです。聞いていてあきれました。

知事の看板に偽り！「子ども、子ども、子ども」と言うが 実際は「国スポ、国スポ、国スポ」だ

学校給食も医療費もタブレットもお金は出さない

『子ども、子ども、子ども』は特に重視する柱として、あらゆる政策の起点に子供を置いて、子供の声や思いを尊重し、子供の笑顔を増やし、夢を膨らませられるよう取組を進めてまいります(9月議会知事の提案説明)。しかし、学校給食の無償化も子ども医療費助成の拡大も高校生タブレット県費負担もすべて否定をしています。ところが…

国スポの開催経費が1.5倍の104億円に

知事は「人件費や資材価格の高騰で見直す必要があった」として、国民スポーツ大会開催費を、64億円から104億円に増額すると表明。彦根の第一種陸上競技場などの主会場整備は220億円。新県立体育館は100億円…国スポ開催経費は総額600億円に迫り、県財政を圧迫し、深刻な財政赤字を招こうとしています。



彦根のトンネル工事は3倍の139億円に

彦根インターから出てきた外町交差点は常時渋滞が発生しています。これが国スポ主会場への障害だとして、当初計画約40億円のトンネルを含むアクセス道路の整備に着手。しかし、重金属のヒ素の出現や脆い地質の崩落等で契約変更をくり返し、139億円にまで工事が膨らんでいます。



こうした国スポ最優先の県政にたいして、オール与党はすべて賛成。日本共産党県議団は、国スポの簡素化を図り、その予算を福祉・教育に回すことを提案しています。

高時川濁水対策連絡調整会議を設置

9月議会で杉本県議が取り上げた高時川の深刻な濁水問題。知事は10月末に「高時川の濁りについて、三部局にまたがる高時川濁水対策連絡調整会議を設け、流域の状況を一年をかけて調べていく」と発表しました。その後、「11月以降に関係部局で延べ27日にわたり現地調査を行うとともに、学識経験者等に聞き取り等を行った」と1月24日に会見で述べました。この中で、県として初めてスキー場の崩落についてふれています。

5年前に杉本県議が取り上げた時に「調査・対策を行っていく」(県答弁)としながら、今日まで放置してきました。

いずれにしても、今日でも高時川の異常な濁りは深刻です。流域では「井戸が枯渇した」という声も出されています。早急な抜本的対策が必要です



高時川・姉川合流点(手前姉川・奥側高時川) 8/31

長浜ドーム照明のLED化 来年度実施へ

長浜バイオ大学ドームの照明のLED化工事が来年1~2月に行われることが明らかになりました。来年度予算見積りで、2億4千万円余が計上されています。この問題は、3年前に杉本県議が予算特別員会で取上げました。

長浜ドームの屋内グラウンドは、年間約16万人が利用。稼働率100%となっています。しかし利用料金が高いことが問題。その原因は高額な照明設備利用料にあります。杉本県議の質問で、水銀灯からLEDに変えることによって、電気使用量は約47%減少し、年間約147.6トンのCO2削減効果があることが明らかになりました。当局は「年間の利用状況やスポーツ施設全体の改修計画を勘案しながら、総合的に検討していきたい」と答弁していました。LDE化が実現すれば、利用料金の低減が見込まれます。

